

I-B-5

アルコール投与時における脂質代謝の変動に 及ぼす大柴胡湯の影響

藤田学園保健衛生大・医・生化¹⁾, 衛・臨化²⁾, 病院・薬剤³⁾, 衛生技術短大・臨化⁴⁾

○原田佳和子¹⁾, 服部紀美¹⁾, 佐々木恵美¹⁾, 石黒伊三雄¹⁾, 長村洋一²⁾, 永田 稔³⁾,
篠原力雄⁴⁾

目的 大柴胡湯は高コレステロール食で飼育したラットやマウスにおいて高脂血症及び脂肪肝の発生を抑制することが報告されている。従って大柴胡湯はアルコール摂取時に見られる脂質代謝異常の改善に役立つことが考えられる。我々は、既に多量のアルコール投与により惹起された脂質代謝異常が大柴胡湯投与によって改善されることを明らかにした。すなわち多量のアルコール投与後に大柴胡湯エキス懸濁液を投与すると血清中の中性脂肪、遊離脂肪酸、過酸化脂質、リン脂質、総コレステロール等の増加が抑制されることを報告した。今回は、アルコール投与により増加するこれらの血清中の脂質成分の中で大柴胡湯による抑制が顕著に認められた中性脂肪について大柴胡湯投与によるその増加抑制の機序を検討した。 **方法** 実験は5週令のWistar系雄性ラットを用いて行った。アルコールの投与は、生理食塩水（生食）で希釈した50%エタノール溶液を28時間絶食後のラットに体重1kg当たり5gとなるように胃ゾンデを用いて経口的に行った。大柴胡湯エキスは、津村順天堂^株より恵与された大柴胡湯エキス原末を生食に懸濁しその投与量が0.8g/kg体重となるように経口的に投与した。また、大柴胡湯をアルコールと同時に投与する場合には、両者を生食に懸濁した溶液を投与した。アルコール投与後のラットは絶食状態で、2時間毎に10時間まで経時的に頸静脈より採血し、その血清中の中性脂肪とアルコール濃度の変動を観察した。中性脂肪の定量は^株ヤトロン^株の中性脂肪測定試薬S（酵素法）を用い、アルコール濃度は酵素法によって測定した。 **結果及び考察** 血清中の中性脂肪は、アルコール単独投与により投与2時間後から増加した。アルコール投与2時間後に大柴胡湯を経口投与すると、アルコール投与2時間後に増加した中性脂肪は、速やかに低下した。大柴胡湯をアルコールと同時に投与するとアルコール投与による中性脂肪の増加が抑制された。またこれらの血清中のアルコール濃度の測定値はアルコール単独投与群、アルコール投与2時間後の大柴胡湯投与群、アルコールと大柴胡湯同時投与群のいずれにおいても差が見られなかった。このように大柴胡湯は、アルコールの吸収や代謝に影響しないで、末梢組織からの脂肪の動員を抑制するため、アルコール摂取に伴う脂質代謝異常に対する改善作用を示すものと思われる。